

宝塚市 ふれあいいきいきサロン・ミニデイサービス
実態調査アンケートのまとめ



宝塚市社会福祉協議会

平成31年1月

○アンケートの概要

1. 目的

- (1) サロン参加者の状況を確認し、サロンで行われている見守り・支えあい活動を把握
- (2) 平成27年に実施したサロン・ミニデイサービスアンケート実態調査と定点観測を行い、参加者層や見守り・支えあい活動の変遷を分析
- (3) 活動の立ち上げの経過や課題を把握し、今後必要な支援を分析

2. 期間

平成30年8月3日～10月31日

3. 対象

当会で把握している市内174団体のふれあいいいきサロン・ミニデイサービスなど地域の居場所づくりの活動を行う団体

4. 方法

- (1) 郵送による送付・返信
- (2) ヒアリング

※H27年に実施したアンケート調査と比較して記述（調査項目があるもののみ）

1. 回答数について

H27年より46カ所のサロンが増加している。今回の調査では、全体の回収率が減少しているが、月3回までのサロンからの返答の割合が増加している。

	H30年	H27年
回答数	125/174 団体 (週1以上開催：61 団体 月3回まで開催：64 団体)	98/128 団体 (週1以上開催：52 団体 月3回まで開催：43 団体、白紙回答：3 団体)
回収率	73.5%	76.6%

2. 人口の変遷について

参加割合が高い65歳からの人口とサロンの増加を合わせてみると、1つのサロンに対する参加人数割合が増加していることがわかる。

	H30年4月	H27年4月
総数	234,349 人 【346 人増】	234,003 人
0～14 歳	16,242 人 (13.7%) 【259 人減】	16,501 人 (13.8%)
15～64 歳	66,550 人 (60.1%) 【583 人増】	67,133 人 (60.6%)
65 歳～	63,557 人 (27.1%) 【3,709 人増】 (参考：365 人にサロンが1カ所)	59,848 人 (25.6%) (参考：468 人にサロンが1カ所)

3. 参加者について

(H27年のアンケートと比較してわかること)

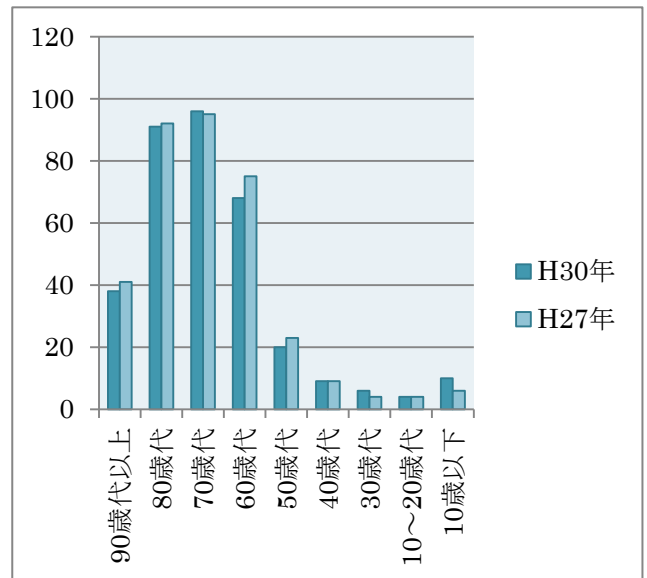
- ・平均参加人数は、全年齢で見ると、微増している。60歳以上に限定すると平均参加人数が増加している。
- また、男性の参加割合は女性と比べると低いことがわかる。
- ・各年代の割合は3年では大きな変化が見られないが、新たに子どもを対象としたサロン（きずなの家など5団体）が増加していることから、10歳以下の参加割合が増加している。
- ・介護認定のある方がサロンを利用している割合は、要介護3～5の方の参加の割合が3倍となっている。

(1) 参加人数及び男女の比率

	H30年	H27年
平均参加人数 (全年齢)	18.6名 (内、男性平均 4.3人、女性平均 14.3人)	18.0名 (内、男性平均 3.9名、女性平均 13.9名)
平均参加人数 (60歳以上)	21.96人	18.84人

(2) 年代別参加割合（複数回答あり）

年代	H30年	H27年
90歳代以上	48団体 (38%)	41団体 (41%)
80歳代	114団体 (91%)	90団体 (92%)
70歳代	120団体 (96%)	93団体 (95%)
60歳代	86団体 (68%)	74団体 (75%)
50歳代	25団体 (20%)	23団体 (23%)
40歳代	11団体 (9%)	9団体 (9%)
30歳代	8団体 (6%)	4団体 (4%)
10～20歳代	5団体 (4%)	4団体 (4%)
10歳以下	12団体 (10%)	6団体 (6%)



(3) 要支援・要介護認定者の割合参加者数（複数回答あり）

介護認定	H30年	H27年
要介護認定（要介護3～5）	8団体 (6%)	2団体 (2%)
要介護認定（要介護1～2）	27団体 (22%)	24団体 (24%)
要支援認定（要支援1～2）	59団体 (47%)	48団体 (49%)

4. サロンでの支援内容について ※3年間で大きく数字が変化した箇所に着色

(H27年のアンケートと比較してわかること)

- ・ 支えあい活動の実施割合が大きく増加している。

週1回以上開催のサロンが14%、月3回まで開催のサロンが10%増加している。

- ・ 増加した支援内容は、送迎、欠席者への安否確認、日常的な見守り・声かけの活動がサロンの開催頻度問わず増加している。

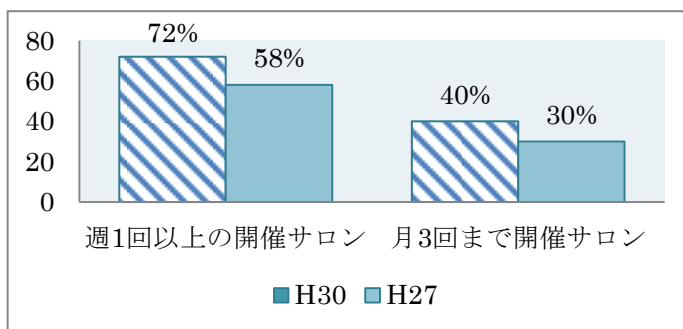
- ・ 週1回以上開催のサロンで、生活支援の活動が増えている。

- ・ 気になる人についての情報交換していることがわかった。

- ・ いきいき百歳体操に取り組むサロンは、支えあい活動の割合が高い。

(1) サロンを通じた支えあい活動状況

アンケート年 開催頻度	H30年	H27年
週1回以上 開催サロン	44 団体 (72%)	30 団体 (58%)
月3回まで 開催サロン	23 団体 (40%)	12 団体 (30%)



(2) 支えあい活動の内訳

①開催日に送迎

アンケート年 支援頻度 開催頻度	H30年			H27年		
	週1回以上	月1回以上	その他	週1回以上	月1回以上	その他
週一回以上 開催のサロン	14 団体 (23%)	7 団体 (11%)	3 団体 (5%)	9 団体 (9.5%)	3 団体 (3.2%)	4 団体 (4.2%)
月3回までの 開催のサロン	0 団体	8 団体 (13%)	0 団体	0 団体 (0%)	6 団体 (6.3%)	3 団体 (3.2%)

②欠席者への安否確認

アンケート年 支援頻度 開催頻度	H30年			H27年		
	週1回以上	月1回以上	その他	週1回以上	月1回以上	その他
週一回以上 開催のサロン	15 団体 (25%)	11 団体 (18%)	14 団体 (23%)	10 団体 (10.5%)	5 団体 (5.3%)	12 団体 (12.6%)
月3回までの 開催のサロン	0 団体	10 団体 (16%)	5 団体 (8%)	0 団体 (0%)	5 団体 (5.3%)	1 団体 (1.1%)

③日常的な見守り・声掛け

アンケート年 支援頻度 開催頻度	H30年			H27年		
	週1回以上	月1回以上	その他	週1回以上	月1回以上	その他
週一回以上 開催のサロン	15 団体 (25%)	3 団体 (5%)	13 団体 (21%)	12 団体 (23%)	2 団体 (2.1%)	7 団体 (7.4%)
月3回までの 開催のサロン	6 団体 (9%)	5 団体 (8%)	8 団体 (13%)	4 団体 (4.2%)	1 団体 (1.1%)	4 団体 (4.2%)

④ 日常的な生活支援

アンケート年	H30 年			H27 年		
支援頻度 開催頻度	週 1 回以上	月 1 回以上	その他	週 1 回以上	月 1 回以上	その他
週一回以上 開催のサロン	8 団体 (13%)	2 団体 (3%)	7 団体 (11%)	4 団体 (8%)	1 団体 (1.1%)	3 団体 (3.2%)
月 3 回までの 開催のサロン	0 団体	4 団体 (6%)	0 団体	3 団体 (3.2%)	0 団体 (0%)	2 団体 (2.1%)

⑤ 気になる人についての情報交換

【H30 年度】

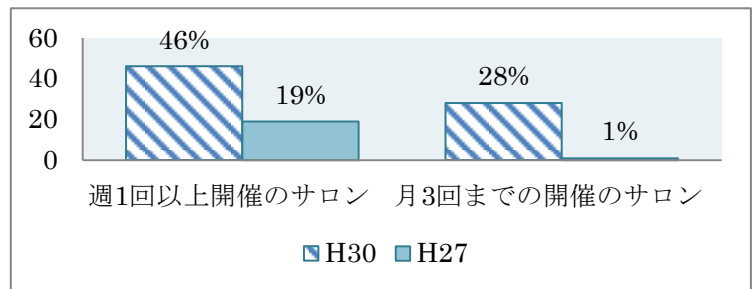
【H27 年は調査項目なし】

支援頻度 開催頻度	週 1 回以上	月 1 回以上	その他
週一回以上 開催のサロン	9 団体 (15%)	11 団体 (18%)	17 団体 (28%)
月 3 回までの 開催のサロン	1 団体 (2%)	14 団体 (22%)	7 団体 (11%)

(3) いきいき百歳体操について

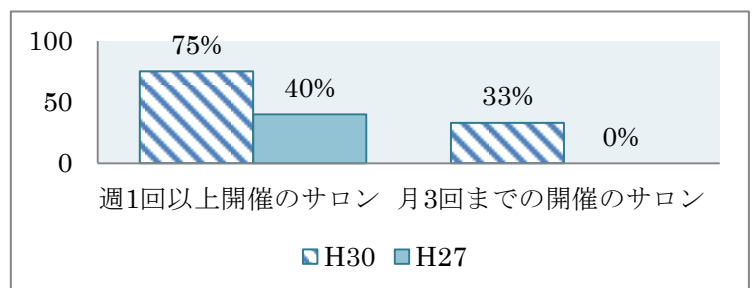
① アンケート回答団体の内、いきいき百歳体操に取り組む団体数

アンケート年 開催頻度	H30	H27
週 1 回以上 開催のサロン	28 団体 (46%)	10 団体 (19%)
月 3 回までの 開催のサロン	18 団体 (28%)	1 団体 (1%)
合計	46 団体 (37%)	11 団体 (11%)



② いきいき百歳体操に取り組む団体の内、支えあい活動に取り組む団体数

アンケート年 開催頻度	H30	H27
週 1 回以上 開催のサロン	21 団体 (75%)	4 団体 (40%)
月 3 回までの 開催のサロン	6 団体 (33%)	0 団体
合計	27 団体 (59%)	4 団体 (36%)



5. 活動を立ち上げた理由（複数回答あり）

サロンを立ち上げた理由として自分の地域に集える場所がなかった・仲間作りをしたかったという回答数が多い。

自分の地域に集える場がなかったから	70 団体
仲間作りをしたかったから	56 団体
知り合いや社協・包括に勧められて	38 団体
身近に支援が必要な人がいたから	22 団体
その他	24 団体
ボランティア活動をしたかったから	16 団体
時間に余裕があったので	4 団体

（その他内訳：キーワードで分類）

【つながり・見守り】
高齢者の見守りにつなげたい
見守り活動を広げるため
孤食の防止
近所付き合いを活発にするため
復興住宅と近隣とのつながりづくりのため
つどい場を増やす必要性を感じた
【震災】
大震災を経験して、助けられる方、助ける方の輪を広げるため
震災の時に、公園でテント生活をしている方への支援がきっかけ
阪神大震災後の「フェニックスステーション」の趣旨に賛同して
災害時困った時の支え合いのため
【自治会】
自治会活動として運用
自治会活動の一環として実施
自治活動として
【その他】
市から言われて
ネットワーク会議で居場所が必要と意見が出た。
社協のプログラムに合致したので
場所の提供があった。商業地域の活性化
ひょうごアドプトへの参画
赤ちゃんがおらず休会していたが、3名の対象者がいたため、再開した。
会館を作る際に、サロン開催が必須だった
地域で必要と感じたから
老人会が廃止になったため

6. 活動中の楽しさややりがい（複数回答あり）

・サロンを開催することで、助け合う関係性が広がった、知り合いが増えたという回答が多かった。

助け合う関係性が広がった	86 団体
知り合いが増えた	83 団体
様々な学びがある	74 団体
「ありがとう」と言われるとうれしい	63 団体
その他	15 団体

（その他内訳 キーワードで分類）

【喜び・楽しさ】
ここに来るのが楽しみと言われると、頑張れる
まずは自分たちが楽しむ
参加することで元気をもらっている
参加者が楽しんで来てくれること
自分自身が生き活きと生活できる
【つながり・見守り】
ゆるやかな繋がりが出来、少しずつ、親密になっていくと思っている
ラジオ体操から日常的にな見守りに繋がった。
支えあい協力意識が深まりつつある
【その他】
活動することが生活のリズムになる
大切な居場所と思ってほしい
情報交換が出来る
情報が入る
地域に慣れてもらう大切さ、地域への関心を持ってもらう
地域への愛着が深まりました。
来ている人がみんな仲良く、和気あいあいとしている。

7. 活動中で困ったことや課題（複数回答あり）

人材不足・担い手の高齢化を課題としている回答が多い。
また、来て欲しいと思っている方が来てくれないことが課題にある。

人材不足、高齢化	83 団体
来て欲しいと思っている方が来てくれない	43 団体
サロンのプログラム	30 団体
活動財源の確保	20 団体
その他	18 団体
場所の確保	6 団体

（その他内訳 キーワードで分類）

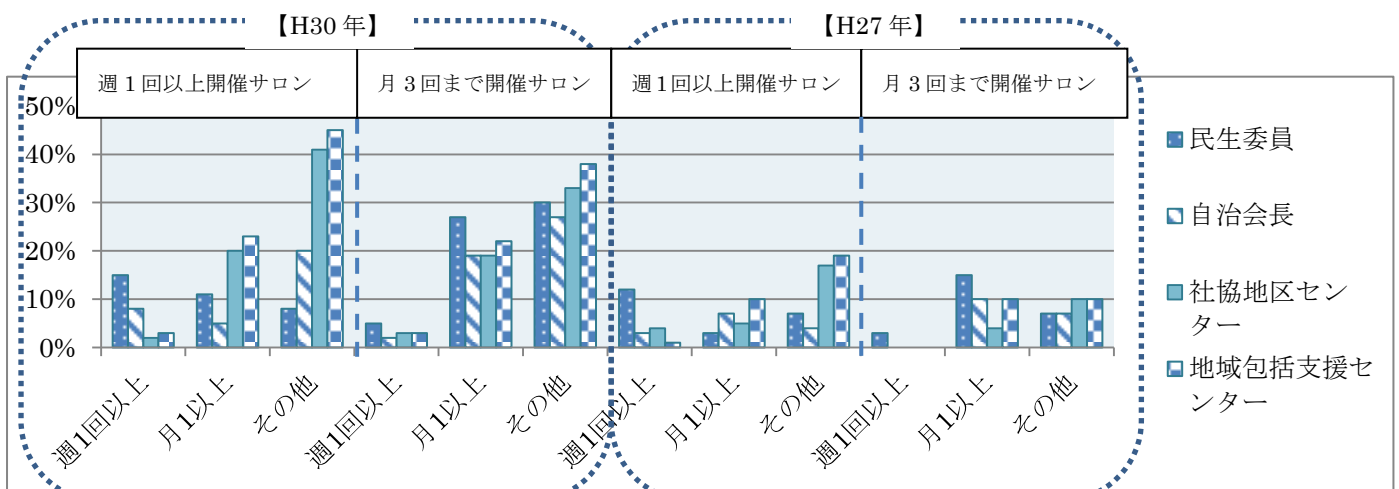
【参加者】
参加希望者が多く、自宅で活動しているので、希望に添えない
参加者が固定している、拡がり薄い
参加者の固定化、
男性の参加が少ない
地域の方にもっと参加してほしい
【担い手】
後継者づくり。
出前講座の講師
年齢層が上昇
ボランティアや参加者の人間関係
【その他】
いき百の実施により、準備に時間がかかるようになった。
ボランティアの負担を軽減したい。
ボランティアも、楽しんでもらいたい。
送迎をしたいが、事故の不安や時間的な制約で実現できない
県の助成金のおかげでなり立っていて感激です。会場費が大きい
要求事項が増加していること

8. 相談・連携している団体

(H27年のアンケートと比較してわかること)

民生委員・自治会長・社協・地域包括支援センターと連携・協働している団体が増えている。特に社協地区センター・地域包括支援センターと連携している割合がサロンの開催頻度問わず増加している。

連携先	サロン開催頻度	週1回以上開催のサロン			月3回までの開催のサロン		
	連携頻度	週1回以上	月1回以上	その他	週1回以上	月1回以上	その他
H 3 0 年	①民生委員	9団体 (15%)	7団体 (11%)	10団体 (8%)	3団体 (5%)	17団体 (27%)	19団体 (30%)
	②自治会長	5団体 (8%)	3団体 (5%)	12団体 (20%)	1団体 (2%)	12団体 (19%)	17団体 (27%)
	③社協地区センター	1団体 (2%)	12団体 (20%)	25団体 (41%)	2団体 (3%)	12団体 (19%)	21団体 (33%)
	④地域包括支援センター	2団体 (3%)	14団体 (23%)	27団体 (45%)	2団体 (3%)	14団体 (22%)	24団体 (38%)
	⑤行政	0団体 (2%)	2団体 (3%)	11団体 (18%)	0団体	4団体 (6%)	6団体 (9%)
	⑥サロン参加者のケアマネジャー	2団体 (3%)	3団体 (5%)	7団体 (11%)	1団体 (2%)	4団体 (6%)	3団体 (5%)
	⑦サービス事業所	0団体	1団体 (2%)	3団体 (5%)	0団体	4団体 (6%)	0団体
	⑧その他	2団体 (3%)	2団体 (3%)	4団体 (7%)	1団体 (2%)	4団体 (6%)	5団体 (8%)
H 2 7 年	①民生委員	11団体 (11.6%)	3団体 (3.2%)	7団体 (7.4%)	3団体 (3.2%)	14団体 (14.7%)	7団体 (7.4%)
	②自治会長	3団体 (3.2%)	7団体 (7.4%)	4団体 (4.2%)	0団体 (0%)	9団体 (9.5%)	7団体 (7.4%)
	③社協地区センター	4団体 (4.2%)	5団体 (5.3%)	16団体 (16.8%)	0団体 (0%)	4団体 (4.2%)	9団体 (9.5%)
	④地域包括支援センター	1団体 (1.1%)	9団体 (9.5%)	18団体 (18.9%)	0団体 (0%)	9団体 (9.5%)	9団体 (9.5%)



9. 分析結果

(1) 仮説

今回、アンケート実施にあたり、下記の仮説を立てた。

①高齢者と要介護認定者の増加について

高齢者人口の増加に伴い、参加者年齢層の高齢化と要介護認定者の割合数が増えているのではないかと。

②支えあい活動の増加について

いきいき百歳体操の推進により、週1日に開催するサロンが増加した。

よって、週1日に開催するサロンが増えたことにより、支えあい活動が増加しているのではないかと。

(2) 仮説と結果の比較分析

①サロン参加者について（仮説①について）

・前回の調査と比較し、平均参加数・年齢層は大きな変化はなく、一定の水準を保ったまま、サロンの数が増加している。

・介護認定については、仮説の通り、要介護3～5の方の参加割合が3倍になっていることから、今後も要介護認定者の参加割合が増加する可能性がある。

②支えあい活動について（仮説②について）

・支えあい活動が増加しており、特に安否確認や日常的な見守り活動が顕著に増加。

・仮説の通り、いきいき百歳が増加したことで、週に1回のサロンが増え、支えあい活動が増加している。このことから、体操などで人が集える機会がサロンの開催回数を増やす有効な動機となる。

(3) 今度調査が必要な項目

①要介護認定者のサロン参加の背景について

- ・同じ参加者が継続して参加し、高齢化することで、要介護認定者の参加割合が増えていくのではないかと。
- ・長年サロンに参加することで、お互いのちょっとした変化に気付き、支えあう関係へとつながっているのではないかと。
- ・ケアの方法や工夫について学習する機会を得ているため、何らかの支援が必要な方でも来やすいサロンになっているのではないかと。

②専門職との連携

・サロンを通じて把握した気になる人について、専門職と共有しながら、支援の方法を検討しているため、支えあい活動が増加しているのではないかと。

(4) アンケートから分かった新たな課題

①参加者について

- ・男性参加者の増加を図るための、ニーズ調査とプログラム展開が必要。
- ・子育て世代などが抱える居場所のニーズ把握が必要。

②活動について

- ・近隣地域の集い場の充足度を知らせることが、新たにサロン立ち上げの要因になっている。集い場をテーマにした情報共有・情報発信が必要となる。
- ・多くのサロンが担い手不足を課題としているため、人材を発掘・養成するための多世代交流とプログラム開発が必要。

10. 今後の対応

(1) 情報発信

- ・今回のアンケート結果や居場所づくり、見守り・支えあい活動事例を、各活動団体に情報発信し、支えあい活動が波及していくように支援を行う。

(2) 調査

- ・今回のアンケート結果からわかった、新たな課題について、以下の通り、調査・分析を行う。
 - ①サロン・ミニデイ活動団体に調査を行い、要介護認定者のサロン参加の背景、専門職との連携から支えあい活動の因果関係を分析する
 - ②定年後男性や子育て世代にヒアリングを行い、居場所としてのニーズ調査を行う。
 - ③地域活動の担い手を養成していくための、人材養成プログラムを住民活動者とともに開発・実施する。

【発行】

社会福祉法人 宝塚市社会福祉協議会
地区担当支援課 生活支援コーディネーター
宝塚市安倉西2-1-1
TEL：0797-86-5003
FAX：0797-86-5160